

平成15年度事業報告

新設の施設であることから職員が新人及び多彩面から入職してきたことを考慮して、この一年は先ず職員の一体感と資質の向上を図りながら、利用者の自主性を尊重しました。安全性の確保と共に、家族の方にも安心感をもっていただけるよう、法人本部・管理課・生活課・地域課において下記事業を行ってきました。

法人本部

1 定款変更関係

- (1) 平成15年7月7日 次の(福)ふじみ野福祉会定款変更を県へ申請しました。

建物の基本財産に編入に伴うもの

第二種社会福祉事業の各事業の施設名変更

平成15年8月11日 同上認可

- (2) 平成15年12月12日 次の(福)ふじみ野福祉会定款変更を県へ申請しました。

書面による表決を認める条項を準則に基づき追加

平成16年1月8日 同上認可

2 県監査

- (1) 平成15年9月12日

法人運営・運営管理・処遇・財務管理について、28項について指導監査を受けました。

結果、指摘事項については改善する旨指導を受けました。

- (2) 平成16年3月10日

平成15年9月12日の指導監査の措置状況監査を受けました。

結果、平成15年9月12日の指導事項は、全体的に改善出来ていると評価を得ました。

3 選挙

- (1) 当施設における不在者投票所の開設及び実施

平成15年9月22日

県選挙管理委員会での不在者投票所の指定を受けました。

平成15年10月22日

参議院埼玉選出議員補欠選挙(施設利用者18人投票)

平成15年11月5日

衆議院選挙及び最高裁判官の国民審査(施設利用者17人投票)

4 理事会・評議員会・監事監査

	理事会	評議員会	監事監査	実施時期	議 題
第1回				5/9	・特別養護老人ホームむさしの等総合維持管理業務約
				5/30	・平成14年度事業・決算報告に対する監査

第1回				5/31	<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度事業報告及び決算報告 ・建物の基本財産編入
第2回					<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人ふじみ野福祉会定款の一部改正 ・社会福祉法人ふじみ野福祉会役員等の報酬に関する規定
第3回				9/30	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員選任（補充） ・（福）ふじみ野福祉会定款の一部改正 ・（福）ふじみ野福祉会理事会運営規定の制定 ・特別養護老人ホームむさしの入所検討委員の報酬等に関する規約の制定
第2回				11/25	<ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度むさしの会計収支予算書等の補正
第4回					<ul style="list-style-type: none"> ・送迎用自動車の一般競争入札及び参加予定者の選定
第3回				11/25	<ul style="list-style-type: none"> ・（福）ふじみ野福祉会評議員の選任
第5回					
第6回				12/12	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人ふじみ野福祉会理事長の選任 ・むさしの（特別養護老人ホーム）の運営規定の一部改正 ・社会福祉法人ふじみ野福祉会給与退職金規定の一部改正
第4回				2/14	<ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度むさしの会計等収支補正予算等 ・社会福祉法人ふじみ野福祉会経理規定 ・送迎用特殊車輛購入に伴う支払資金の借用
第7回					<ul style="list-style-type: none"> ・給食管理ソフトリース契約 ・訪問介護事業の契約等
第5回				3/25	<ul style="list-style-type: none"> ・平成15年度収支予算補正予算 ・社会福祉法人ふじみ野福祉会経理規定の一部改正 ・社会福祉法人ふじみ野福祉会組織規定の一部改正 ・社会福祉法人ふじみ野福祉会就業規則の一部改正
第8回					<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人ふじみ野福祉会給与・退職金規定の改正 ・自己申告による業務評価システム導入 ・平成16年度事業計画及び収支予算 ・平成16年度総合維持管理業務委託 ・平成16年度ガス供給契約

管理課

1 経理事務の適正化

既存ソフトを使用し介護報酬事務処理、施設会計処理を効率的に行いました。利用者負担の徴収方法は郵便局の自動払込システムを利用し、入所及び通所利用者はすべて自動払込にて処理、ショート利用者も

随時自動払込に移行しています。

定例会議・行事等の記録は、施設内イントラネットを有効活用し、職員誰でも閲覧できる体制にしました。また、広報誌の発行ができなかったため今後、施設便りの発行に努めます。

2 施設管理の効率化

当施設の総合維持管理について、法令上の点検を含め競争入札により選定した本州ビル・メンテナンス(株)への委託を中心に年間計画に沿って行いました。管理上問題が生じたときは、事の大小を問わず即時委託会社と連絡を取りながらその都度解決に努めました。また、建築物の一年点検については、建築施行者の奥村組に平成16年3月一杯かけて不備なところを摘出し、補正を行いました。

3 職員研修の充実

職員の資質の向上及び高齢福祉などの情報収集のために、関係団体が主催する研修に参加するほか、内部研修を実施しました。

時期	研修名	内容	場所・対象	内	外
3/17	新任研修	法人基本方針について	リ八室等・全職員		
3/18	器具扱い研修	器具什器取り扱い説明	各フロア・全職員		
3/19	器具扱い研修	器具什器取り扱い説明	各フロア・全職員		
3/20	器具扱い研修	器具什器取り扱い説明	各フロア・全職員		
3/22	トランス研修	移動介助	リ八室等・全職員		
3/24	食事システム研修	委託業者による給食システム説明	ふじエット・全職員		
	食事介助演習	食事介助の方法について	ふじエット・全職員		
3/25	器具扱い研修	器具什器取り扱い説明	各フロア・全職員		
	生活援助研修	日常生活シュミレーション	各フロア・全職員		
4/1	新任研修	施設基本方針について	リ八室等・全職員		
		パソコン研修	2階ホール・全職員		
4/2	新任研修	器具什器取り扱い説明	各フロア・全職員		
		食事の盛り付け	各フロア・全職員		
		移動介助	各フロア・全職員		
4/3	新任研修	レクレーション研修	各フロア・全職員		
		パソコン研修	各フロア・全職員		
		看護研修(BP 研修)	各フロア・全職員		
4/4	新任研修	器具什器取り扱い説明	各フロア・全職員		
		排泄介助	各フロア・全職員		
5/16	給食研総会	14年度事業報告・決算報告 15年度事業計画の説明 記念講演「健康増進法について」	所沢保健所 山中		

6/20	調理研修	調理の実務について	特養 さくら 種岡		
7/14	給食研修	衛生講習	所沢保健所 種岡		
7/21 7/23 7/28	ケアプラン研修	ケアプランの作成説明	会議室・特養職員		
7/29 7/30	中堅職員研修	中堅職員の施設内における役割 他	県社協 小山		
8/25	褥創研修	褥創のケアに対する知識の習得	リハ室・特養職員		
10/24	給食研修	安全でおいしい食事とソフト食 について	所沢保健所 種岡		
11/14 11/17 11/20	接遇研修	接遇マナーの知識の習得	会議室・特養職員		
11/15	給食研修	特定保健用食品について	所沢保健所 種岡		
12/1 12/2	レクリエーション研修	レクリエーションの方法、グループワーク他	県社協 志村		
12/2	給食研修	透析患者の食事管理	所沢保健所 種岡		
12/8 12/9 12/11	食事介護研修	食事介護の周知徹底	会議室・特養職員		
1/31	相談員研修	相談援助スキルアップ研修	県社協 吉江		
1/27 1/28 1/29	食事介護研修	ユニットケアにおける食事のあり方と 関連業務について	会議室・特養職員		
2/6	排泄研修	おむつはずしの施設内の取り組み	特養 悠々園 富原・市川		
2/10	身体拘束ゼロ 推進セミナー	身体拘束における事例検討他	埼玉市民会館 西島 山田		
2/10 2/17 2/24	口腔ケア研修	口腔ケアにおける知識習得	テイルム・特養職員		
2/20	給食研修	施設見学及び情報交換	国立病院東京災害医 療センター・山中		

2/26	口腔ケア研修	在宅における口腔ケアのポイント	所沢保健所 渡辺・小山		
3/21	事務研修	事務職員における接遇において	県社協・清水		
3/22	普通救命講習	緊急時の対応技術の習得	リ八室・特養職員他		
3/23	地域福祉研修	地域福祉活動を展開するために 事例報告	県社協 富原		

4 給食内容の充実

利用者においしく召し上がっていただくために、入所時と12月に食嗜好調査を実施し、また、残菜により利用者のニーズの把握に努め、献立に季節感のある素材を使用しました。また、冷たいものは冷たく、温かいものは温かく提供し、介護・看護職員とも検討する会議を実施しました。衛生面にも十分配慮し厨房内・食品庫の食品管理と清掃を徹底して、食中毒防止に努めました。なお、行事食は生活課の行事と記載しました。

5 防災対策の強化

平成15年度は、利用者の生命と身体の安全を最優先に防災訓練を行っていく計画を立てましたが、計画通りには実施できませんでした。平成16年度はきめ細かい防災訓練を行うよう努めます。なお、嶋田課長が甲種防災管理者講習を受講しました。

次のような防災訓練を行いました。

9月30日 消火器具使用訓練(参加職18人)

3月4日 総合訓練(火災、通報、避難誘導)(参加職20人)

3月22日 応急救護訓練(15名)

6 安全衛生活動の推進

施設内の環境を点検したものを安全衛生委員会で検証するとともに特に職員の安全衛生に関し、健康診断、インフルエンザ予防接種、検便検査を定期的に行いました。

7 相談・苦情の対応

利用者の権利の擁護と生活の質の向上を図るために、5月の理事会・評議員会に苦情解決実施要綱を提案し、第三者委員を入れた施設オンブズマンを設置し、10月より相談日を設け直接相談を受付けてます。

(毎月第二木曜日 PM2:00~4:00)

生活課

特別養護老人ホーム むさしの

開設当初ということもあり、介護レベルの向上を基本とし総体的には安全性を重要視したサービス提供を心がけてきました。その中でゆり、きく、ふじ、きり、さくら、もみじ、それぞれ14人のユニットの特性を活かしながら以下の事業を重点的に各セクションと協同実施しました。

介護

1 3 大介護 + 整容

日常業務における助言・指導、内部研修や外部研修を通じて生活介護の3大介護（食事・入浴・排泄）+整容を中心に、基本的な援助が確実に実施できるように行ってきました。来年度は同性介助やオムツはずしを踏まえ上記の介護技術の更なる向上を目指していきたいと考えています。

2 個別サービス

ユニットケア本来の利点である個別サービスの充実を図るべく、サービス提供を勤めてきました。ユニットケアは前例が少なく、職員は、試行錯誤を繰り返しながら実践してきました。特に実際に目に見える介護だけでなく、高齢者の人権を尊重しながらメンタルケアに配慮しました。しかし、施設介護サービス計画に基づく計画的なサービス提供はできているとは言い難いため、来年度は計画的に個別サービスが提供できるようにします。

3 リスクマネジメント

痴呆性高齢者が多く生活する施設において介護等の事故や苦情を最小限に予防、回避するために介護や援助の方法を安全委員会を中心に検討してきました。手順としてはヒヤリハット・事故報告をもとに状況の検証からはじめ、介護や援助方法の検討、実施、状況によってはご家族に協力していただきながら援助を実施してきました。年間を通して、ヒヤリとする場面は予防・回避（マンツーマンでの対応、転倒するであろう利用者への見守り強化等）することが段階的にできるようになると同時に職員のリスクマネジメントに対する意識の高揚になりました。

4 身体拘束ゼロ

身体拘束は入所者の身体機能の低下や寝たきりの状態を発生させる要因でもあり、入所者の人権を侵し、QOLの向上を根底から阻みます。入所以前には身体拘束を（つなぎ服、抑制、4本柵に囲まれたベット等）されていた利用者に対し、身体拘束をしない方針のもとワーカー会議等の場で関係職員の話し合い、状況によっては家族の協力を得ながら、身体拘束はゼロとしています。具体的な方法として、ソフト面ではマンツーマンでの援助、ハード面では居室設置のモニター、離床センサー、施設内PHSの有効活用があげられますが、来年度以降も利用者の人権擁護のために身体拘束ゼロを続けていきます。

5 会議・委員会

特養職員の中心でもあるワーカーが中心となり委員会や会議を行い、業務内容・提供するサービス内容等の企画・実施を行いました。

主任会議	毎月第2、4水曜	安全委員会	第1木曜
リダー会議	毎月第2木曜	排泄委員会	第3水曜
ワーカー会議	2階毎月第1・3月曜	衛生委員会	第4火曜
	3階毎月第1・3金曜	給食委員会	第3木曜

各委員会で実施した内容の総括は下記の通りです。

安全委員会報告

年間ヒヤリハット合計：246件

(内訳)

月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	24	21	23	22	30	24	32	28	20	16	6

異食：5件 誤薬：9件 対人：46件 転倒・転落：167件 その他：19件

所在確認

特に2階は徘徊者が多く、また、6月28日に利用者が1人で外へ出てしまうという事故を教訓として、11時、14時、20時、遅番による所在確認を行う事としました。その結果、食事、排泄、水分補給を含め、約1時間に1回の所在確認の実施ができ、徘徊者や1人で1階へ降りてしまう利用者の確認ができるようになりました。

センサークッションの使用

ある利用者の転倒やその寸前の報告があり使用開始しました。その結果、効果は高く、その後の転倒はなくなりました。しかし、利用者の行動を抑制してしまうことも考えられます。そこで使用時は必ずその方の状況、意思確認を行いました。また、転倒の危険がある利用者にも使用し、効果がありました。

車椅子の位置、ブレーキの確認

自立した利用者の転倒があり、自立していてもいつ何が起こるかわからないということを、再認識し、周知徹底しました。

朝礼、夕礼の出席者の変更

朝礼は各ユニットから一人ずつ出席し、夕礼は夜勤者二人ずつ出席していましたが、ユニットに職員が誰もいない状態がありました。そのため、朝礼、夕礼中の車イスからのずり落ち、利用者同士のトラブルがあり、それらの事故防止の為、各ユニットに必ず一人待機することにしました。その結果、待機者がユニットから職員がいなくなるという状態が少なくなり、事故防止につながりました。

夜間の1時間に1回の巡回

第4回の委員会において夜間の事故の報告が多数あり、従来の3時間おきの夜間の巡回を1時間に1回ごとの巡回を行い事故の減少につながりました。

服薬確認

服薬前に必ず名前を読み上げ、顔と名前の確認、指差し確認、ペアを組むワーカーとの相互確認の作業をワーカー全員が徹底しました。その結果、最近ではワーカー同士の声かけが定着し、服薬確認が行えるようになりました。

食事・排泄介助の変更

以前は、食事・排泄介助ともに、2人同時進行で行っていたが、その方法では、ユニットに待機職員がいなくなることがありました。特に排泄介助中の事故が多く見られた為、排泄介助は1人、1人はユニットに

待機することとしました。

食事に関しては1人は食事介助、1人は服薬、口腔ケアと作業を分業した。その結果、排泄介助中の見守りができることによって事故が減り、高い効果をあげました。

日勤の休憩時間の変更

遅番休憩中の14時から15時の事故件数が多く、日勤の13時30分からの休憩を13時からとし14時からの待機者を増やし、安全対策をとりました。その結果、フロアーに1人待機という時間が少なくなり、見守りを重視することができました。

マンツーマン対応

問題行動や転倒の危険性の高い利用者については1対1の対応をしました。また、必要時には看護職員や相談員と協同で見守り援助を行いました。その結果、従来より転倒の多かった利用者の転倒がなくなり、現在、そのような対応を2名続けています。

総括として

職員間でのリスクマネジメントに対する共通認識が持てるようになったのが最大の成果と考えています。活動するにあたり、事故が起こってからへの対応に終始してしまうことが多かったので、来年度は前年度の実績をもとに事故予防に着目し活動を進めていきたいと考えています。

整容委員会報告

食後のホール清掃

食後の食べこぼしが目立ち、見た目、衛生的に良くないということで食後にキッチンの掃き掃除をすることにしました。ワーカー間共通認識のもと清掃を行うことができ食べこぼしがほとんどなくなりました。

インフルエンザ予防

乾湿計を設置し、日中時間を決めて換気を実施しました。その際、安全面を考慮し排煙口など開けるようにした。夜間は洗面器に水を張ったものを各居室に置きました。結果、熱発者が少なく効果があったと看護より報告がありました。

テーブルクロス

各ユニット毎に色を変え、利用者もユニットの区別がつくように3Fにて実施しました。食堂の雰囲気もよく華やかな感じになったので、今後は2Fでも実施することにしました。

椅子カバー

時が立つにつれ汚れが目立つようになったため、定期的な洗濯を実施することにしました。

清掃日は毎月1回1ユニットずつ実施。

- ・ 2Fは毎月1日
- ・ 3Fは毎月15日

施行後、洗濯することが定着し、汚染されたカバーは随時洗濯するようになりました。

車イス、ポータブルトイレ清掃

以前はワーカー会議の日に実施していたが、定期的には実施出来ないという事もあり、清掃日の見直しをした。入浴もなく日中人数がいる日曜日にしました。結果、ワーカーも意識出来るようになり順調に行えているので今後も継続していきたいと考えています。

総括として

決定事項が周知徹底されていないことが多々あり、実践に結びつきませんでした。委員からの連絡不足が原因としてあげられます。また、衛生という抽象的な名前に捕われすぎてなかなか議題が決まらず、活動内容が曖昧になってしまいました。このような反省を踏まえ、来年度は整容委員会と称し活動していくとともに、インフルエンザ等の流行り病の季節を意識した委員会としていきたいと考えています。

排泄委員会報告

ポータブルトイレ洗淨

ポータブルトイレの洗淨・消毒の徹底や居室内環境の清潔保持については以下の通り行いました。

- ・ 定時（排泄時）での排泄物の破棄
- ・ 1日1回、ポータブルトイレ全体の消毒・清拭
- ・ 月1回の洗淨

が、定時のみの汚物の処理では不十分、且つ不衛生なため、今後随時の処理を実施・徹底していきます。

手指消毒

職員を媒介としての細菌・感染症等の伝染予防と衛生管理のため、排泄時、利用者ごとに手指消毒を行うことにしました。しかしながら、全ての職員に徹底されていない面もあるので、来年度以降、排泄用消毒ボトルを新たに購入し、再度手指消毒の徹底を図っていきたいと考えています。

陰部洗淨

年度始め頃より、尿路感染・膀胱炎に感染した利用者がいました。尿路感染等の蔓延防止のため、従来の清拭のみの対応に陰部洗淨を加え、陰部清潔保持に努めています。日中は毎回実施し、夜間は状況に応じ適宜行いました。現在は清拭剤を使用し陰部洗淨を実施していますが年間を通じ、13人の利用者に尿路感染・出血性膀胱炎等の尿性状異常があらわれています。そのため、陰部洗淨を徹底し来年度は感染予防に努めます。

おむつ外しと随時交換

当初は、利用者のADLの把握が十分でなかったため、利用者の方にあった排泄介助が十分ではありませんでした。ADL把握を行い、立位可能な方はトイレへ誘導、介助方法を工夫し立位不可能者であっても、ポータブルトイレ介助を行い、排泄意の回復に努めました。年度後半からは、利用者によってはおむつからリハビリパンツ・失禁パンツへと移行し、両フロア内でおむつ外しを実施してきました。具体的な数値は、以下の通りです。

< 2F > おむつを外している利用者 38.9%（現在）

< 3F > おむつを外している利用者 42.4% (現在)

< 両フロアー > 平均 40.6%

来年度以降は、失禁パンツをさらに効果的に使用し、おむつ外しを実施していきたいと思います。今後、リハビリパンツ・失禁パンツへ移行可能な利用者(2階 10名、3階 3名)を含めると、最大で以下の数値までおむつ外しが可能と思われます。

< 2F > 66.7% (今後)

< 3F > 51.5% (今後)

< 両フロアー > 平均 59.4%

オムツ外しをするということは排泄パターンの把握から始まります。個々の排泄パターンを把握するために随時介助を平行して行いながら、あくまでも数値目標に過ぎませんが、来年度少なくとも5割程度を目標に、おむつ外しに取り組んでいきます。

総括

開設前、排泄についての研修を各種様々行ってきましたが、実際の利用者を対象として排泄介助をすると、清拭の拭き方やおむつのつけ方等困惑する場面が多くありました。その後、基本的な排泄介助の技術を習得しましたが、尿路感染・膀胱炎等に感染し、そのような感染症を誘発する原因のひとつとして、不潔な状態があげられるため、陰部洗浄の徹底を行いました。しかし、尿路感染等の利用者は一向に減らず、原因の1つに職員が陰部洗浄を怠っていることが考えられるため引き続き陰部洗浄の徹底を図ります。さらに、おむつ外しを最大の課題として、来年度以降取り組んでいくと同時に同性介助を段階的に実施していきたいと考えています。

給食委員会報告

委託業者との連携

利用者の一番の楽しみとも言える食事をおいしく提供するために、施設栄養士を中心とし委託業者との連携の強化に努めました。委託業務ということもあり、当初細部にわたる調整業務が困難なケースもあったが、給食委員会において検討をすすめることによって職員間の連携がスムーズになりました。

真空調理・選択食

毎食選択食を可能にすることと厨房を働きやすい環境にすることを目指して真空調理が可能な設備を整えましたが、有効活用ができたとは言い難いため、来年度以降調理部門を直営化し、真空調理での食事の提供、同時に選択食を段階的に実施していきたいと考えています。

衛生管理

ユニットケアを実施しているためランチルームでの炊飯、食事の盛り付け、配膳を実施していくうえで衛生面には十分配慮しました。具体的には各ユニット・厨房にて洗浄するものを選別し行いました。また、毎月の検便など実施することにより食中毒等の問題はありませんでした。

検食

開設当初は変則勤務に入らない職員が検食を行っていたが、日頃、食事介助等をする変則勤務者が検食

を行った方がより利用者の嗜好を踏まえた検食ができるのではないが、ということで10月より変則勤務者が検食をするようにしました。

総括

上記したように真空調理と選択食が十分にできなかったため、来年度はそれらを実施していけるようにしていきたいと思います。併せて、調理職員と介護職員が食事の提供を共同実施できるように調理部門を直営事業とし、今まで以上に、おいしい食事、食欲をそそる食事、個人の要望にできるだけ応え、個人にあった食事作りに努めていきます。

6 行事

年間を通じて様々な行事を行ってきました。内容は下記の通りです。

実施時期	行事名	内容	実施ユニット	備考
4/13	お花見	外気浴や花見を楽しみ春の訪れを感じながら昼食をする	合同	上福岡市運動公園
	お花見弁当			
5/2	端午の節句	昔ながらの日本の行事を季節を感じながら楽しむ	合同	2階ホール
	ばら散らし寿司 すまし汁 高野豆腐の含め煮 なめたけ和え メロン いちご			
5/24	誕生会 (4月・5月)	該当月の誕生者を皆で祝う	合同	2階ホール
6/22	誕生会	該当月の誕生者を皆で祝う	合同	3階ホール
7/7	七夕	七夕の準備や短冊作りを通して利用者・職員の交流をはかる	合同	3階ホール
	七夕そうめん うなぎ入り茶碗蒸し 小松菜ときのこの和え物 スイカ			
7/27	誕生会	該当月の誕生者を皆で祝う (8月以降の誕生会については利用者の誕生日に合わせてユニット内で誕生会をおこないました。)	3階	3階ホール
	散らし寿司 うなぎのかぶら蒸し すまし汁 オレンジ			
8/2	納涼祭	通所・入所利用者・家族・地域・利用者が納涼祭を通して地域交流をはかる	合同	第1駐車場
	模擬店 たこ焼き お好み焼き 焼きそば いなり寿司 梔子うどん 焼き鳥 おでん			
8/24	誕生会	該当月の誕生者を皆で祝う	2階合同	2階ホール
	誕生会	該当月の誕生者を皆で祝う	3階合同	3階ホール

9/15	敬老会	入所利用者が職員・ボランティア 演芸、家族と共にバイキング食を 楽しむ	合同	1 階リハビリ・デイルーム
	ばら散らし寿司 すまし汁 筑前煮 茶碗蒸し 白和え ぶどう 梨			
10/11	手作りおやつ	フルーツオムレットを利用者と 一緒に作り舌鼓を打つ	きり	ユニット食堂
10/11	外出	難波田城公園にて散策及び手作 りお弁当を楽しむ	ふじ	難波田城公園
10/15	手作りおやつ	たこやきを利用者と一緒に作り 舌鼓をうつ	さくら	ユニット食堂
10/18	外出	難波田城公園にて散策及び手作 りお弁当を楽しむ	きく	難波田城公園
10/21	手作りおやつ	フルーツポンチを利用者と一緒 に作り舌鼓を打つ	さくら	ユニット食堂
11/10	手作りおやつ	餃子を利用者と一緒に作り舌鼓 を打つ	きり	ユニット食堂
11/12	手作りおかず	餃子を利用者と一緒に作り舌鼓 を打つ	きり	ユニット食堂
11/13	鍋パーティー	鍋を囲みユニット利用者が心身 ともに温まった	もみじ	ユニット食堂
11/16	映画会及び手 作りおやつ	2階ホールにてスクリーンを使用 して映画会を楽しんだ。また、午 後よりユニット合同でホットケ ーキを利用者と一緒に作り舌鼓 を打つ	2階合同	ホール
12/22	クリスマス会	各階およびユニットで嗜好をこ らしクリスマス会を行う	2階合同	ホール
			きり	ユニット食堂
			もみじ	ユニット食堂
			さくら	ユニット食堂
サトウイチ コンクリームスープ ミートロー コールドサラダ いちご				
12/28	餅つき	新年の準備をするために餅つき を行い搗き立ての餅に舌鼓打つ	合同	1階全域
	からみ餅 きな粉餅 磯辺餅 あんこ餅 豚汁 白菜漬け 甘酒 みかん			
12/31	年越しそば			
1/1	おせち料理 雑煮			
1/5 ~	初詣	近隣神社にて初詣を楽しむ	希望者 毎回5名前後	八幡神社

1/14	七草粥(1/7)			
1/10	新年会	各ユニットで職員の演芸を楽しみ、家族と一緒にバイキングに舌鼓を打つ	各ユニット	ユニット食堂
	押し寿司 いなり寿司 すまし汁 炊き合わせ 浅漬け フルーツ盛り合わせ			
2/3	節分	各ユニットで掛け声とともに豆まきを行い厄払いをした 3階では各ユニットでチョコレート作りを行う	各ユニット	ユニット食堂
	かに散らし寿司 すまし汁 炊き合わせ 茶碗蒸し みかん			
3/3	ひな祭り	ボランティアによる琴の演奏を聞きながら伝統行事を楽しんだ	2階合同	ホール
			きり	ユニット食堂
			もみじ	ユニット食堂
			さくら	ユニット食堂
赤飯 そうめんすまし汁 牛肉の大和煮 かぼちゃの含め煮 りんごのコンポート				
3/23 ~ 3/30	お花見	リハビリ室からびん沼川の桜を眺め花見弁当に舌鼓を打つ	ユニット毎	1階リハビリ室

相談

1 入所判定会議

富士見市との協議において入所定員70名に対し、要介護度3以上、市内居住者55名、市外居住者が15名という入所基準を設け、開設前より入所申込み利用者のアセスメントを行い、入所判定委員会を実施しました。その結果、4月7日より段階的に入所を行い、7月25日で満床となりました。

2 再申込み・入所相談

満床以降については、平成15年4月17日に富士見市介護福祉入所指針に基づいて入所申込みを再度行いました。3月31日現在、174名の利用者が待機者となっています。

入所相談時には、緊急性の高い利用者については近隣サービス事業者の情報提供を行うほか、必要に応じ関係機関とも連絡を取り生活場所の確保のための援助をしました。

3 成年後見制度

契約から始まる介護保険サービスの観点から、痴呆性高齢者や身元引受人不在の入所者申込者については、利用契約不能の事態陥らないために市と調整を行いながら成年後見制度の手続きのための支援を行いました。入所前から制度利用の方を含めると、成年被後見人3人、被保佐人2人、手続き中1人の方がいられます。手続き中の方は市の成年後見制度利用支援事業を利用しています。

4 相談・連絡・調整

入所、入院している利用者に関わらず、相談事項や連絡事項が生じた場合は速やかに相談・連絡・調整をし、家族が安心できるように支援しました。

5 懇談会

利用者および家族懇談会を開催し、情報交換の場を提供する他、苦情、要望などを受け入れ、サービス提供に役立てました。

家族懇談会 11/22

ユニット懇談会 11/13(きり) 11/14(もみじ) 11/19(さくら)

看護

1 疾病の早期発見・早期治療

日常生活におけるバイタル測定、体重測定、食事摂取量、排泄記録に基づきながら、また、ワーカーとの連絡を密にとりながら疾病の早期発見に努めました。軽傷においては施設内で処置をし、また、状況に応じて協力病院（篠田中央クリニック・みずほ台病院）に連絡をとり受診しました。

2 回診・健康診断

内科・外科（篠田中央クリニック：院長） 歯科（新座ファミリー歯科：副院長） 精神科（富士見メンタルクリニック：院長） 回診を診察室、居室にて行いました。また、健康診断を 11/25、11/26 に実施し入所利用者の健康管理をしていただきました。

内科・外科回診 毎週火曜 14:00～16:00

歯科回診 毎週水曜 14:00～16:00

精神科回診 隔週水曜 14:00～16:00

回診一覧

回診日	内・外	歯	精	回診日	内・外	歯	精
4/30	5			12/2	10		
5/20	10			12/3		14	
5/27	21			12/4			6
6/3	10			12/9	6		
6/10	18			12/10		15	
6/17	18			12/16	5		
6/24	21			12/17		13	
7/1	21			12/24	6	14	
7/8	34			12/28			6
7/15	20			12/29	8		
7/22	32			1/6	10		
7/29	36			1/7		13	
8/5	12			1/8			6

8/12	12			1/13	10		
8/13		7		1/14		15	
8/19	11			1/20	9		
8/20		13		1/21		14	
8/26	8			1/28		15	
8/27		13		2/2			5
9/2	7			2/4		15	
9/9	14			2/3	4		
9/10		9		2/9			1
9/16	17			2/10	12		
9/17		14		2/11		15	
9/24	9	16		2/17	6		
9/30	10			2/18		14	
10/1		14		2/19			5
10/7	9			2/24	10		
10/8		14		2/25		18	
10/14	3			3/2	12		
10/15		15		3/3		18	
10/21	11			3/4			7
10/22		13		3/5			1
10/28	18			3/9	21		
10/29		11		3/10		19	
11/4	10			3/16	8		
10/5		12		3/17		18	
11/6			5	3/18			6
11/11	4			3/23	16		
11/12		15		3/24		17	
11/18	14			3/29		17	
11/19		13		延べ合計	574	457	48
11/20			6				
11/25	6						
11/26		14					

入退院一覧

氏名	入院日	退院日	病名	病院名	救急・施設	
T, S	6/18	11/死亡	腹水/高脂血症	三浦病院		
Y, I	7/30		DM/褥瘡	みずほ台病院		

H , T	9/1	9/19	出血性潰瘍	篠田中央クリニック		
N , T	9/13	9/25	S 状結腸肥大	みずほ台病院		
S , E	9/25	9/26	起立性低血圧	篠田中央クリニック		
H , M	10/1	10/4	ウイルス性腸炎/脱水	篠田中央クリニック		
A , S	10/3	10/15	心筋梗塞	篠田中央クリニック		
N , T	10/15	10/24	心不全/貧血	みずほ台病院		
Y , H	11/7	11/8	せん妄	みずほ台病院		
M , I	11/27	1/19	原因不明	みずほ台病院		
K , H	11/28	11/29	検査入院	篠田中央クリニック		
T , T	11/28	12/20	左大腿部骨折	篠田中央クリニック		
S , T	12/6	12/9	検査入院	鶴瀬病院		
S , E	12/10	2/1 死亡	診断つかず	みずほ台病院		
A , S	12/26	1/6	インフルエンザ 検査	篠田中央クリニック		
S , T	1/5	1/20	脳梗塞	篠田中央クリニック		
K , K	1/9	1/10	検査入院	みずほ台病院		
K , K	1/12	1/15	脳梗塞	みずほ台病院		
E , K	1/12	2/2 退所	脳梗塞	新座志木中央病院		
A , S	1/14	2/2 死亡	心不全	篠田中央クリニック		
N , T	1/16	1/2 死亡	巨大結腸症	みずほ台病院		
T , T	1/30	2/13	前頭葉梗塞	南古谷病院		
T , T	2/28	3/29	心不全	南古谷病院		
K , K	3/8	3/16	意識障害	南古谷病院		
A . T	3/10	3/24	脳梗塞	南古谷病院		
K , Y	3/22	3/2 死亡		みずほ台病院		
Y , T	3/26	3/30	圧迫骨折	篠田中央クリニック		

リハビリ

1 機能訓練

理学療法士が、各入居者の身体機能、活動能力及び生活環境をはじめとしたADL全般の評価を行ない、それに基づいてリハビリテーション計画を立案し、個別訓練として提供しました。また、医師の指示の下、医学的リハビリテーションとしての個別訓練も提供しました。内容は関節可動域訓練、筋力強化訓練、全身運動訓練（起居動作等）、歩行訓練、マッサージ等の運動療法及びホットパック等の物理療法です。提供場所は、主に機能訓練室と各居室でした。

非常勤理学療法士が、評価、プログラム立案を行ない、常勤鍼灸マッサージ師が訓練を担当しました。頻度等は以下の表の通りです。

	実施日数	2 F	3 F	計
6月	21日	72人	138人	210人
7月	23日	25人	155人	180人
8月	21日	5人	148人	153人
9月	21日	0人	172人	172人
10月	23日	1人	176人	177人
11月	19日	4人	134人	138人
12月	21日	48人	124人	172人
1月	19日	33人	148人	181人
2月	20日	32人	172人	204人
3月	22日	15人	149人	164人
計	210日	225人	1516人	1741人

1日平均8人実施

2 車椅子のフィッティング

車椅子使用者の身体機能、活動能力に合わせた車椅子のフィッティングを行ないました。

3 動作介助方法の検討

生活における種々動作において介助を要する入居者に対して、運動学的な動作を誘導することが可能と思われる介助方法の検討を行ないました。

4 スタッフへの動作介助指導

上記方法を介護スタッフに助言し、必要に応じた指導を行なった。また、新人職員に対して、動作介助の基本的な考え方や方法の指導を行ないました。

5 住宅改修プランの立案

在宅介護支援センターのケアマネージャーと共に、在宅で生活している利用者を訪問し、身体機能、活動能力、環境面に合わせた住宅改修プランの立案を行ないました。

以上が非常勤（週1回）理学療法士1名、常勤鍼灸マッサージ師1名の体制で、今年度リハビリテーション部門が提供してきた内容です。今後より一層、入居者の生活に密着したリハビリテーションの提供を充実させていきたいと考えています。

短期入所生活介護 むさしの

4月開設と同時にショートステイ事業も実施しました。入所利用者が満床になった7月より本格的に受け入れをはじめ、年間を通して14人のベット枠を利用し80%の利用をしていただきました。しかし、申込から退所までの過程において改善すべき課題（衣類の誤配・紛失等）が多くあるため、来年度は介護そのものを含めそれらを段階的に解決していきたいと思っております。

地域課

デイサービスセンター むさしの

平成15年5月6日よりデイサービスを開始しました。利用者の在宅での生活を考慮しながら、できる限り利用者や家族の要望を大切に汲み取り、また、利用者の心身の状況を把握し、その維持・向上と安全な介助に努める、などを課題としてサービス提供につとめました。具体的な介護の内容としては、可能な限り同性介助を実施していくこと、個別に対応したプログラムを工夫し実施していくこと、個人の思いを大切に利用者本位のサービスを実施していくことなどを年間通じて努めてきました。

特に同性介助については入浴、排泄の介助等で実施努力を重ね、利用者からの評判もよくほぼ達成できていると思われます。個別プログラムにおいては、理学療法士に助言を得て安全で心地よい移乗などができるようにするなどかなりの効果を上げた事例もあるが、全般から見るともう少し多くの利用者に対応すべきだったとの反省点もあります。家族からさまざまな相談や要望が寄せられることも数多くあったが、職員の努力と惜しみないサービス提供の姿勢、またきめ細かな連絡や報告、訪問により信頼関係が築けたと思います。

作業活動においては、かなり高度な木工細工やタイル絵、砂絵、皮細工などの実施で、意欲的に取り組み作品を仕上げる利用者も多くいて、効果をあげています。

今後の課題として、より個別対応を進めていくためには、さらに職員が介護に関する専門的技術や知識の向上、感性をみがぐことに努め、利用者に提供できる多くの作業やレクに関するアイテムを身につけることが要求されます。また自力では作業やレクなどができない利用者や意欲が持てない利用者、痴呆重度で問題を抱えた利用者などにどのように対応していくかを十分考えていくことがあげられます。

1 デイサービス利用状況（別紙添付）

（1）月別

デイサービス利用者人数を月別にみていくと、平成15年5月に利用者3名でサービスを開始して以来、1日平均利用者が1.5名と少なかったが、7月から徐々に増えはじめ、11月には実利用人員が20数名、1日平均利用者5名となった。その後利用者数は伸びなやみ、平成16年3月（年度末）の実利用人員は24名、1日平均利用者は5.8名であった。運営日数235日、利用延べ人員830名です。

（2）曜日別

年度を通しての曜日別利用者人数の平均は、月曜日3.8名、火曜日3.5名、水曜日3.7名、木曜日4.8名、金曜日4名で、年間全体での平均は1日あたり4名の利用でした。

（3）サービス提供時間

全員が9時30分～16時30分のうち、6時間以上8時間未満の利用でした。

（4）送迎

デイ利用者は「迎え」「送り」とも施設での送迎を利用。またデイ利用者が特養ショートステイを利用する場合、その入所時および退所時にデイの送迎を利用しているため、送迎回数は年間延べ1498回であった。利用者人数のわりに利用者の居住地区が分散していたり、利用者の利用希望と送迎ルートの調整困難がありました。時には職員が添乗できずに運転者だけで送迎実施するなど不安な面も多々あったが、特に利用者にかかわる事故やトラブルもなく、無事に送迎車の運行ができました。

今後は、利用者の増加に伴って、利用する時間の調整、利用する曜日の調整、ルートの考察などを行い、送迎がより安全に効率よく実施できるように検討を重ねていきます。

2 事業内容

(1) 年間行事

はじめ（5月～6月）は利用者数が少ないため、活動などを計画しても行事として実施できなかつたり、利用者の意欲がうまく引き出せなかつたりしました。

その状況の中でも、いつもと変わった雰囲気や方法を取り入れ、少しでも利用者の気持ちに変化や刺激をもたらすものを提供することを考え、「変わり湯」を実施しました。利用者には大変好評だったので毎月下旬に実施することにし、ミニ行事として年間通して定着させることができました。7月、8月からは利用者も増え始め、さまざまな行事を利用者とともに行うことができ、特に外出や日帰り旅行は、在宅生活でもほとんど自由に外出できない利用者が多い為か好評で再度の実施希望が多くありました。

行事などは曜日により利用者の顔ぶれが異なるため、1週間同じ内容で実施するようにし、できる限り偏りのない提供を考慮しました。今後は、利用者の能力に応じた、さまざまな作業内容を組み入れていく。また利用者の懇談会や日頃の会話を通して、利用者が希望することもできる限り取り上げ実施に努めます。

年間行事

実施時期	行事名	内容	備考
6 / 第4週	変わり湯	入浴剤や果物、ろうそくなどを利用していつもと違った入浴を楽しむ。	フルーツ湯 アロマ湯
7 / 第1週	七夕	笹飾り制作への取り組みや七夕の話などで季節を感じ利用者間での交流を深める。	
7 / 第4週	変わり湯	前月に同じ	花風呂
7 / 10, 11	難波田城巡り	城跡の見学と散歩を楽しむ。	難波田城公園
7 / 24, 25	白玉作り	白玉団子やあんこをみんなで作り、懇談しながら味わう。	
7 / 31	デイ納涼祭	はっぴを着て盆踊りをしたり、かき氷やスイカ割りで自分たちのまつりを作り上げて楽しむ。	
8 / 1	デイ納涼祭	上記と同じ	
8 / 第3週	変わり湯	前月に同じ	香りの石鹸使用
8 / 第4週	上映会	スクリーンを使用して昔のビデオ映画を見ながら懐かしむ。	チャップリン映画
9 / 15	敬老会 家族懇談会	家族とともに演芸やバイキング料理を楽しみ交流をする。	特養と合同
9 / 第3週	変わり湯	前月に同じ	りんご風呂

10/10 15, 16	日帰り旅行	外出の機会を通して外に目を向け、気分転換をするとともに、外食や買い物を楽しむ。 前月に同じ	サイボクハム 智光山公園
10/第4週	変わり湯		しゃぼん湯
11/第3週	変わり湯	前月に同じ	花風呂
12/全週	散歩週間	外気浴と運動を兼ね、できる限りみんなで散歩に出かける。地域を知る。	施設近隣
12/第4週	変わり湯	前月に同じ	ゆず湯
12/第4週	クリスマス会	クリスマス飾りを作り、歌などで楽しむ。	
1/第1週	新年ゲーム大会	新年会を兼ね、いろいろなゲームをみんなで楽しむ。	
1/第3週	変わり湯	前月に同じ	アロマ湯
2/第1週	節分	豆まきで厄払いをし、みんなで健康を祈り豆を食べた。	
2/第4週	変わり湯	前月と同じ	しゃぼん湯
3/第1週	ひな祭り 記念撮影会	雛あられや甘酒で節句を祝い、雛型に顔をいれ記念の写真を撮る。	
3/第3週	変わり湯	前月に同じ	フルーツ湯

5 活動内容

(1) 作業

木工細工	木製パズル、ペン立て、小物入れなどの制作
タイルモザイク	細かな色タイルを貼り飾り絵を制作
砂絵	いろいろな色砂により壁飾りを制作
スティック編み物	スティック状の卓上編台でマフラー、膝掛け、マットの制作
棒針編み物	棒針で膝掛け、マフラーなどを編む。
パイル盆制作	パイルの厚紙に色紙を貼り、小物入れや盆類を制作
ちぎり絵	色紙や和紙をちぎって貼り飾り絵を制作
塗り絵	色鉛筆や絵の具で色塗りをし、壁絵を制作
水彩画	絵の具により絵を制作
粘土細工	紙粘土や樹脂粘土で小物、動物などの置物を制作
折り紙	花びらを折り、みんなで花を制作(あじさいなど)
ペーパーブロック	小片の紙を折り、ブロックのように組み合わせて作品制作
革細工	皮に模様や色を付け、小物(コースター、キーホルダー)制作

(2) レク活動

カラオケ	カラオケセットで歌謡曲などを歌い楽しむ。
合唱	歌集を見ながら童謡、唱歌など懐かしい歌を歌う。
ビデオ映画	ビデオやスクリーンで映画などを観て楽しむ。
ゲーム	ボーリング、輪投げ、玉入れ、将棋、碁、オセロ、お手玉 しりとりなど
読書	本読みで静かに過ごす
散歩、外出	施設近辺や近くの公園へ出かけ散策する。
おやつ作り	白玉で団子を作り、みんなで味わう。
談話	みんなで輪になり、さまざまな話しをして交流する。

ヘルパーステーション むさしの

今年度は2月よりサービスを開始しました。当面は1名の利用者(担当は当支援センター)で、週に2回(火・木)1回2時間の身体介護(外出介助)行ってきました。外出介助ということで天候に左右はされたが、利用者および家族からはよい評価をもらっています。

来年度はサービス利用者の増加を目指し、より質の高いホームヘルプサービスを展開していきたいと考えています。

支援センター むさしの

本年5月より本格的にサービスを開始しました。支援センターは在宅で介護を要する高齢者や介護者のニーズを総合的に受け止める相談窓口及び居宅介護支援事業所としての機能を持っています。そのために高齢者のニーズをよりの確に把握し、柔軟な対応が出来るように、関係機関との連携を深めていく必要がある中で下記の事業を行ってきました。

1 在宅に関する様々なニーズに対し、電話や面接訪問などでその解決を目指しました。

初年度ということで支援センターが受けた相談件数は下記の通りとなっています。相談件数は71件で延べ人数は90名となっています。

また、市役所からの委託を受け市内の高齢者の実態把握を地域民生員の方々と実施をしました。市からの調査依頼件数は99件のうち41件の調査を行いました。その他、市からの依頼外で行った調査が17件あり、総数としては58件の調査を行いました。

2 介護機器等の紹介・展示、使用方法の説明、住宅改修などの情報を提供し、相談・助言を行いました。

玄関ホールに介護用品の展示・説明を行っています。またや購入を希望する場合はそのつど相談に乗っています。住宅改修は今年度は2件行い、利用者のADLの改善や家族の介護の軽減にも役に立っています。

3 地域住民を対象に介護に関する教室などを開催し、高齢者と共に生きる地域作りに努力しました。

今年度は3月に「排泄」に関する家族介護者教室を開きました。当日は10名の参加を得、紙おむつの種類

や使い方および他の排泄用具の紹介、排泄の介護について当センターの職員が話をしました。

4 保険・医療・福祉の分野サービスについて、情報提供や積極的利用を支援しました。

当センターがケアプラン作成を行っている利用者は14名です。利用者一人一人にあったプランを作成し、他事業所との連絡を取りより質の高い生活が出来るよう利用状況情報や他サービスの情報を積極的に提供してきました。

相対的には、初年度ということで、必ずしも満足のいく数字ではありませんが、他機関や他事業所より当センターのサービスにつながる相談も多数ありました。来年度も地域の各機関や団体等と連絡を取り合い、地域密着型の支援センターとして活動していきます。

入居者・利用者の状況

2004年3月31日現在

むさしの（特別養護老人ホーム）

介護別人員

介護度	1	2	3	4	5	計	平均
人数	0	2	22	36	9	69	3.8

年齢・性別人員

	59歳以下	60～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	1	3	2	6	3	0	15	81.3	93	67
女性	1	4	1	10	24	12	1	53	83.1	101	55
計	1	5	4	14	30	15	1	70	82.7		

月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9					
実人員	28	44	62	70	70	70					
延日数	377	1,037	1,532	2,010	2,085	2,009					
利用率	22.4	47.7	72.9	92.6	96.0	95.6					
	月	10	11	12	1	2	3	計	平均		
	実人員	70	70	70	70	72	69	765	63.8		
	延日数	2,109	2,076	2,080	2,031	1,945	2,075	21,366	1,781		
	利用率	97.1	98.8	95.8	93.5	95.8	95.6		83.4%		

短期入所事業（むさしの）

介護別利用の日数

介護度	要支援	1	2	3	4	5	計	平均
人数	2	61	77	79	88	26	333	2.8

年齢・性別利用延人員

	59歳以下	60～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	2	12	12	28	50	21	0	125	86.5	99	42
女性	2	11	19	31	103	44	0	210	84.3	99	52
計	4	23	31	59	153	65	0	335	84.7		

月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9					
実人員	2	7	13	19	27	31					
延日数	19	65	46	76	215	293					
利用率	5.6	14.9	10.9	17.5	49.5	69.7					
	月	10	11	12	1	2	3	計	平均		
	実人員	45	35	30	35	45	41	330	27.5		
	延日数	346	267	289	365	377	320	2678	223.2		
	利用率	79.7	61.5	66.5	84.1	92.8	73.7		52.3%		

デイサービスセンターむさしの

介護別人員

介護度	要支援	1	2	3	4	5	計	平均
人数	1	14	13	8	4	1	41	2.1

年齢・性別人員

	59歳以下	60～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	2	3	3	6	1	0	15	79.8	94	69
女性	0	0	4	6	14	2	0	26	81.5	94	70
計	0	2	7	9	20	3	0	41	80.9		

月別利用状況（通所介護適用者）

月	4	5	6	7	8	9			
実人員		3	4	8	11	13			
延日数		11	29	46	54	59			
利用率		3.3	9.2	13.3	17.1	17.8			
	月	10	11	12	1	2	3	計	平均
実人員		17	21	21	21	22	24	165	13.8
延日数		79	106	104	104	110	134	836	69.7
利用率		22.8	35.3	30.1	31.5	36.6	38.8		23.2%

ヘルパーステーションむさしの

介護別人員

介護度	1	2	3	4	5	計	平均
人数		1				1	2

年齢・性別人員

	59歳以下	60～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	0	0	1	0	0	0	1	79	79	79
女性	0	0	0	0	0	0	0	0			
計	0	0	0	0	0	0	0	0			

月別利用状況

月	2	3	計	平均
実人員	1	1	2	1
延日数	6	5	11	5.5

支援センターむさしの

介護別人員

介護度	要支援	1	2	3	4	5	計	平均
人数	0	5	3	0	4	0	12	2.3

年齢・性別人員

	59歳以下	60～69歳	70～74歳	75～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男性	0	0	0	1	2	1	0	4	85.5	94	79
女性	0	0	2	0	6	0	0	8	83.3	89	70
計	0	0	2	1	8	1	0	12	84		

月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9				
実人員		2	4	6	10	9				
		月	10	11	12	1	2	3	計	平均
		実人員	13	13	10	11	10	12	78	7.1

各ユニット利用者ADL状況
2階 ゆり
食事

	自立			要介助					合計	
				一部介助		全介助				小計
	食堂	居室	小計	食堂	居室	食堂	居室	経管		
男	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
女	4	0	4	4	0	2	0	0	6	10
計	6	0	6	4	0	2	0	0	6	12

排泄

	自立	要介助							小計	合計	夜間オムツ(再掲)
		トイレ	尿便器	オムツ	併用						
					尿トイレ便器	オムツトイレ	オムツ尿便器	尿トイレオムツ			
男	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	2
女	0	1	0	2	0	7	0	0	10	10	7
計	0	1	0	2	0	9	0	0	12	12	9

入浴

	自立	要介助						小計	合計
		ひのき利用		機械浴槽		清拭のみ			
		一部介助	全介助	リフト浴ア	チャイルド浴		ストレーリア		
男	0	0	1	1	0	0	2	2	
女	0	2	3	5	0	0	10	10	
計	0	2	4	6	0	0	12	12	

移動

	自立				要介助			合計
	歩行	歩行器杖	車椅子	小計	一部介助	全介助	小計	
男	1	0	1	2	0	0	0	2
女	2	0	0	2	2	6	8	10
計	3	0	1	4	2	6	8	12

洗面

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	0	2	0	2
女	0	4	6	10
計	0	6	6	12

更衣

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	1	1	0	2
女	0	4	6	10
計	1	5	6	12

各ユニット利用者ADL状況

2階 きく
食事

	自立			要介助					小計	合計
	食堂	居室	小計	一部介助		全介助				
				食堂	居室	食堂	居室	経管		
男	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4
女	4	0	4	4	0	0	0	0	4	8
計	8	0	8	4	0	0	0	0	4	12

排泄

	自立	要介助							小計	合計	夜間オムツ(再掲)
		トイレ	尿便器	オムツ	併用						
					尿トイレ便器	オムツトイレ	オムツ尿便器	尿トイレオムツ			
男	1	0	0	1	1	1	0	0	3	4	2
女	3	0	0	1	0	2	2	0	5	8	5
計	4	0	0	2	1	3	2	0	8	12	7

入浴

	自立	要介助						小計	合計
		ひのき利用		機械浴槽		清拭のみ			
		一部介助	全介助	リフト浴ア	チャイルド浴ア				
男	0	1	0	3	0	0	4	4	
女	0	2	3	3	0	0	8	8	
計	0	3	3	6	0	0	12	12	

移動

	自立				要介助			合計
	歩行	歩行器杖	車椅子	小計	一部介助	全介助	小計	
男	1	0	1	2	1	2	3	5
女	2	1	0	3	0	4	4	7
計	3	1	1	5	1	6	7	12

洗面

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	1	3	0	4
女	2	4	2	8
計	3	7	2	12

更衣

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	2	2	0	4
女	3	1	4	8
計	5	3	4	12

食事

	自立			要介助					合計	
	食堂	居室	小計	一部介助		全介助		小計		
				食堂	居室	食堂	居室			経管
男	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
女	5	0	5	2	0	2	0	0	4	9
計	8	0	8	2	0	2	0	0	4	12

排泄

	自立	要介助							小計	合計	夜間オムツ(再掲)
		トイレ	尿便器	オムツ	併用						
					尿トイレ便器	オムツトイレ	オムツ尿便器	尿トイレオムツ			
男	0	0	0	1	0	2	0	0	3	3	2
女	2	2	0	4	0	1	0	0	7	9	5
計	2	2	0	5	0	3	0	0	10	12	7

入浴

	自立	要介助						小計	合計
		ひのき利用		機械浴槽		清拭のみ			
		一部介助	全介助	リフト浴ア	チャイルド浴				
男	0	0	2	0	1	0	3	3	
女	0	5	0	4	0	0	9	9	
計	0	5	2	4	1	0	12	12	

移動

	自立				要介助			合計
	歩行	歩行器杖	車椅子	小計	一部介助	全介助	小計	
男	1	0	0	1	0	2	2	3
女	2	1	0	3	2	4	6	9
計	3	1	0	4	2	6	8	12

洗面

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	0	2	1	3
女	0	5	4	9
計	0	7	5	12

更衣

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	0	1	2	3
女	2	5	2	9
計	2	6	4	12

	自立			要介助					合計	
				一部介助		全介助				小計
	食堂	居室	小計	食堂	居室	食堂	居室	経管		
男	1	0	1	1	0	1	0	0	2	3
女	4	0	4	3	0	0	0	0	3	7
計	5	0	5	4	0	1	0	0	5	10

排泄

	自立	要介助							小計	合計	夜間オムツ(再掲)
		トイレ	尿便器	オムツ	併用						
					尿トイレ器	オムツイレ	尿便器オムツ	尿トイレ器オムツ			
男	1	0	0	1	0	1	0	0	2	3	2
女	0	0	0	1	0	3	2	1	7	7	7
計	0	0	0	2	0	4	2	1	9	10	9

入浴

	自立	要介助						小計	合計
		ひのき利用		機械浴槽		清拭のみ			
		一部介助	全介助	リフト浴ア	チャイロベリア				
男	0	1	0	1	1	0	3	3	
女	0	4	0	3	0	0	7	7	
計	0	5	0	4	1	0	10	10	

移動

	自立				要介助			合計
	歩行	歩行器材	車椅子	小計	一部介助	全介助	小計	
男	1	0	1	2	0	1	1	3
女	0	2	2	4	1	2	3	7
計	1	2	3	6	1	3	4	10

洗面

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	1	1	1	3
女	3	2	2	7
計	4	3	3	10

更衣

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	1	0	2	3
女	1	3	3	7
計	2	3	5	10

各ユニット利用者ADL状況

3階 もみじ

食事

	自立	要介助

	自立			一部介助		全介助			小計	合計
	食堂	居室	小計	食堂	居室	食堂	居室	経管		
男	2	0	2	1	0	0	0	0	1	3
女	7	1	8	1	0	0	0	0	1	9
計	9	1	10	2	0	0	0	0	2	12

排泄

	自立	要介助								小計	合計	夜間オムツ(再掲)
		トイレ	尿便器	オムツ	併用							
					尿トイレ便器	オムツトイレ	オムツ尿便器	尿トイレオムツ便器				
男	1	0	0	1	0	1	0	0	2	3	2	
女	1	0	0	1	0	4	1	2	8	9	7	
計	2	0	0	2	0	5	1	2	10	12	9	

入浴

	自立	要介助						小計	合計
		ひのき利用		機械浴槽		清拭のみ			
		一部介助	全介助	リフト浴ア	スロベリアシャワー浴				
男	0	2	0	0	0	0	2	2	
女	0	3	1	5	1	0	10	10	
計	0	5	1	5	1	0	12	12	

移動

	自立				要介助			合計
	歩行	歩行器具	車椅子	小計	一部介助	全介助	小計	
男	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	1	8	9	0	3	3	12
計	0	1	8	9	0	3	3	12

洗面

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	0	0	0	0
女	8	3	1	12
計	8	3	1	12

更衣

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	1	1	1	3
女	3	4	2	9
計	4	5	3	12

各ユニット利用者ADL状況

3階 さくら

食事

	自立	要介助		小計	合計
		一部介助	全介助		

	食堂	居室	小計	食堂	居室	食堂	居室	経管	小計	
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	9	0	9	1	0	1	0	0	2	11
計	9	0	9	1	0	1	0	0	2	11

排泄

	自立	要介助								合計	夜間オムツ(再掲)
		トイレ	尿便器	オムツ	併用				小計		
					尿トイレ便器	オムツトイレ	オムツ尿便器	尿トイレオムツ			
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
女	0	1	1	1	0	4	3	1	11	11	9
計	0	1	1	1	0	4	3	1	11	11	

入浴

	自立	要介助						合計
		ひのき利用		機械浴槽		清拭のみ	小計	
		一部介助	全介助	リフト浴	カトレア			
男	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	2	2	6	1	0	11	11
計	0	2	2	6	1	0	11	11

移動

	自立				要介助			合計
	歩行	歩行器杖	車椅子	小計	一部介助	全介助	小計	
男	0	0	0	0	0	0	0	0
女	4	5	0	9	1	1	2	11
計	4	5	0	9	1	1	2	11

洗面

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	0	0	0	0
女	7	3	1	11
計	7	3	1	11

更衣

	自立	要介助		合計
		一部介助	全介助	
男	0	0	0	0
女	2	6	3	11
計	2	6	3	11